滞留水の貯蔵状況（11月12日時点）

東京電力ホールディングス株式会社

2026年11月26日

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量
- 建屋内滞留水水位は施設運用上の基準を満足

②1～4号機タンク貯蔵量
- 淡水化装置による処理により，RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
- 蒸発濃縮装置は全台停止中

③5，6号機滞留水貯蔵量
- 構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量
- 除染装置停止中のため，廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約930 m^3	－（水抜き完了）
2号機	約1,180 m^3	－（水抜き完了）
3号機	約1,250 m^3	－（水抜き完了）
4号機	約10 m^3	－（水抜き完了）
合　計	約3,370 m^3	

（合計）:±50[m3/4週]　（合計）:±20[m3/週]

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約7,780 m^3	T.P.418
高温焼却炉建屋	約2,880 m^3	T.P.136
合　計	約10,660 m^3	

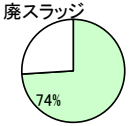
（合計）:−220[m3/4週]　（合計）:+510[m3/週]

	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	583 m^3	1,200 m^3
SPT(A)	406 m^3	3,100 m^3
SPT(B)	864 m^3	3,100 m^3
1号CST	623 m^3	1,600 m^3
2号CST	1,839 m^3	2,200 m^3
3号CST	1,408 m^3	2,200 m^3
バッファタンク	628 m^3	700 m^3

（合計）:−983[m3/4週]　（合計）:+332[m3/週]

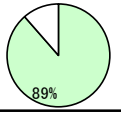
④廃棄物発生量

廃スラッジ



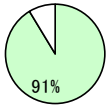
保管量:518/700[m3] ※3

使用済ベッセル



保管量:6097/6884体 ※1

濃縮廃液



保管量:約9408/10300[m3] ※3
水位計0%以上の保管量:9308[m3]
タンク底部～水位計0%の保管量(DS):約100[m3]

③5，6号機タンク貯蔵量

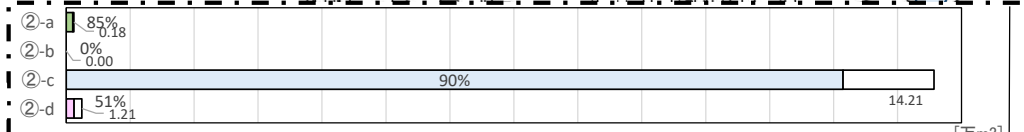
Fエリアタンク

水量:約7946/8400[m3] ※2,3
+111[m3/4週]/±0[m3/4週]
+112[m3/週]/±0[m3/週]

タンク総容量

水量:約1245287/1401700[m3] ※2,3
−8466[m3/4週]/±0[m3/4週]
−3736[m3/週]/±0[m3/週]

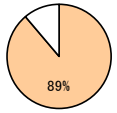
タンク貯蔵量合計（②＋③）



②−a RO処理水（淡水）	②−b 濃縮塩水（残水）	②−c ALPS処理水等	②−d Sr処理水等(ALPS処理前水)
水量:約10169/12000[m3] ※2,3	水量:約0/0[m3] ※2,3	水量:約1214848/1356900[m3] ※2,3,4,6 ※7	水量:約12324/24400[m3] ※2,3 ※7
水位計0%以上の水量:10069[m3]	水位計0%以上の水量:約0[m3]	水位計0%以上の水量:1212448[m3]	水位計0%以上の水量:12124[m3]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約100[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約0[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約2400[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約2700[m3]
−324[m3/4週]/±0[m3/4週] −861[m3/週]/±0[m3/週]	±0[m3/4週]/±0[m3/4週] ±0[m3/週]/±0[m3/週]	−9217[m3/4週]/±0[m3/4週] −3004[m3/週]/±0[m3/週]	+964[m3/4週]/±0[m3/4週] +17[m3/週]/±0[m3/週]

②1～4号機タンク貯蔵量

1～4号機タンク総容量



水量:約1237341/1393300[m3] ※2,3,4
水位計0%以上の水量:1234641[m3]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約2700[m3]
−8577[m3/4週]/±0[m3/4週]
−3848[m3/週]/±0[m3/週]

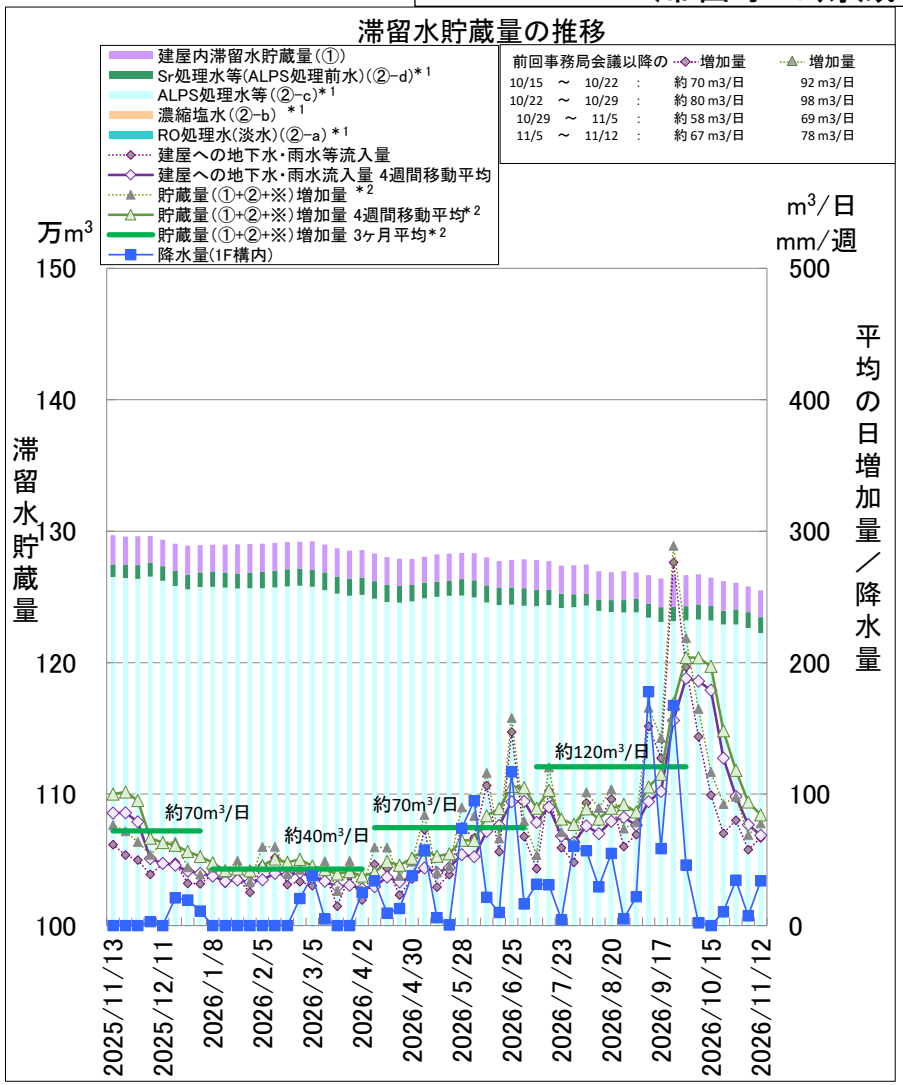
水量:約1257722[m3]
−9730[m3/4週] ※5
−2986[m3/週]

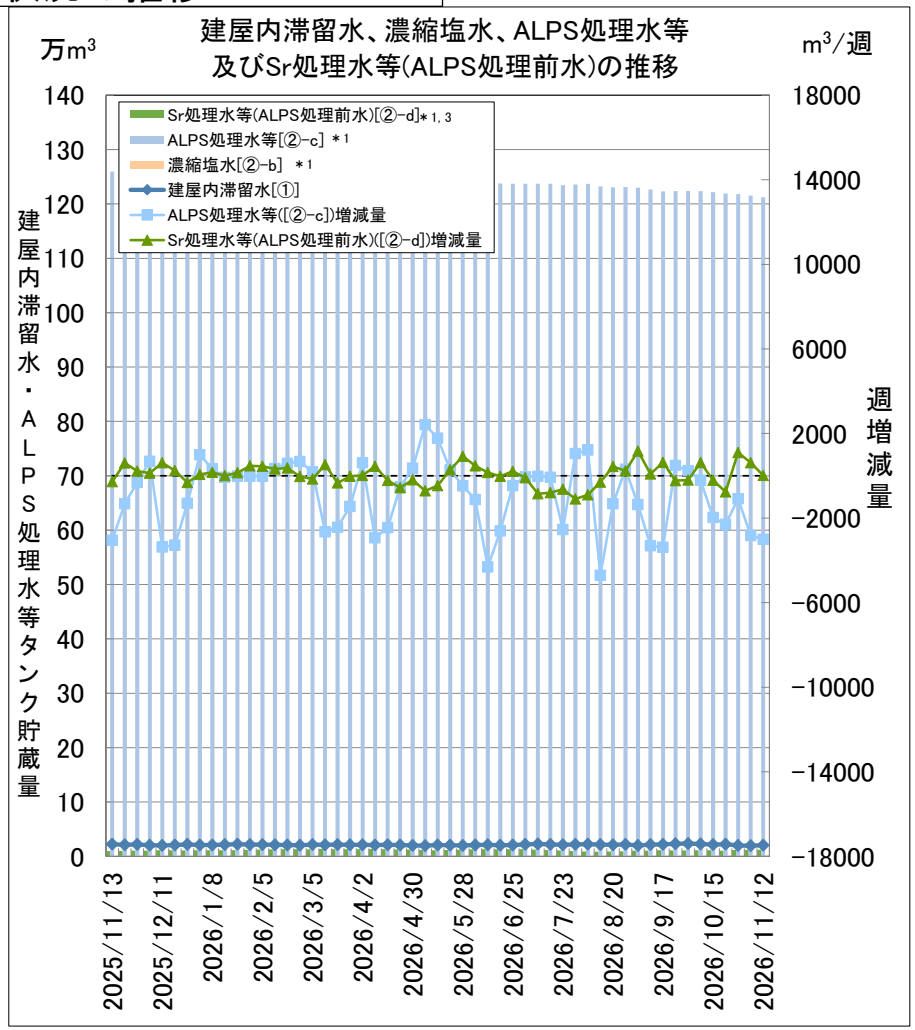
建屋内貯蔵量
＋
1～4号機タンク貯蔵量
(①＋②)

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセル含む
※2 装置稼動中につき水位が静定しないため参考扱い
※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記。端数処理上、水量の総和と異なる場合がある)
※4 多核種除去設備等(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
※5 ウェルポイント・地下水ドレン(約40m³/週)、その他移送量(約20m³/週)の合計約60m³/週を含む
(端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある)
※6 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む
※7 フランジ型タンクのタンク底部～水位計0%の水量(DS)は水位計0%以上の水量に含める

東京電力ホールディングス株式会社
2026年11月26日

滞留水の貯蔵状況の推移





①：建屋内滞留水貯蔵量（1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(A)、SPT(B)、1～3号機CST、バッファタンク）
②：1～4号機タンク貯蔵量（[(②-aRO処理水(淡水)]+[(②-b濃縮塩水]+[(②-cALPS処理水等]+[(②-dSr処理水等(ALPS処理前水)]）
※：タンク底部から水位計0%までの水量（DS）

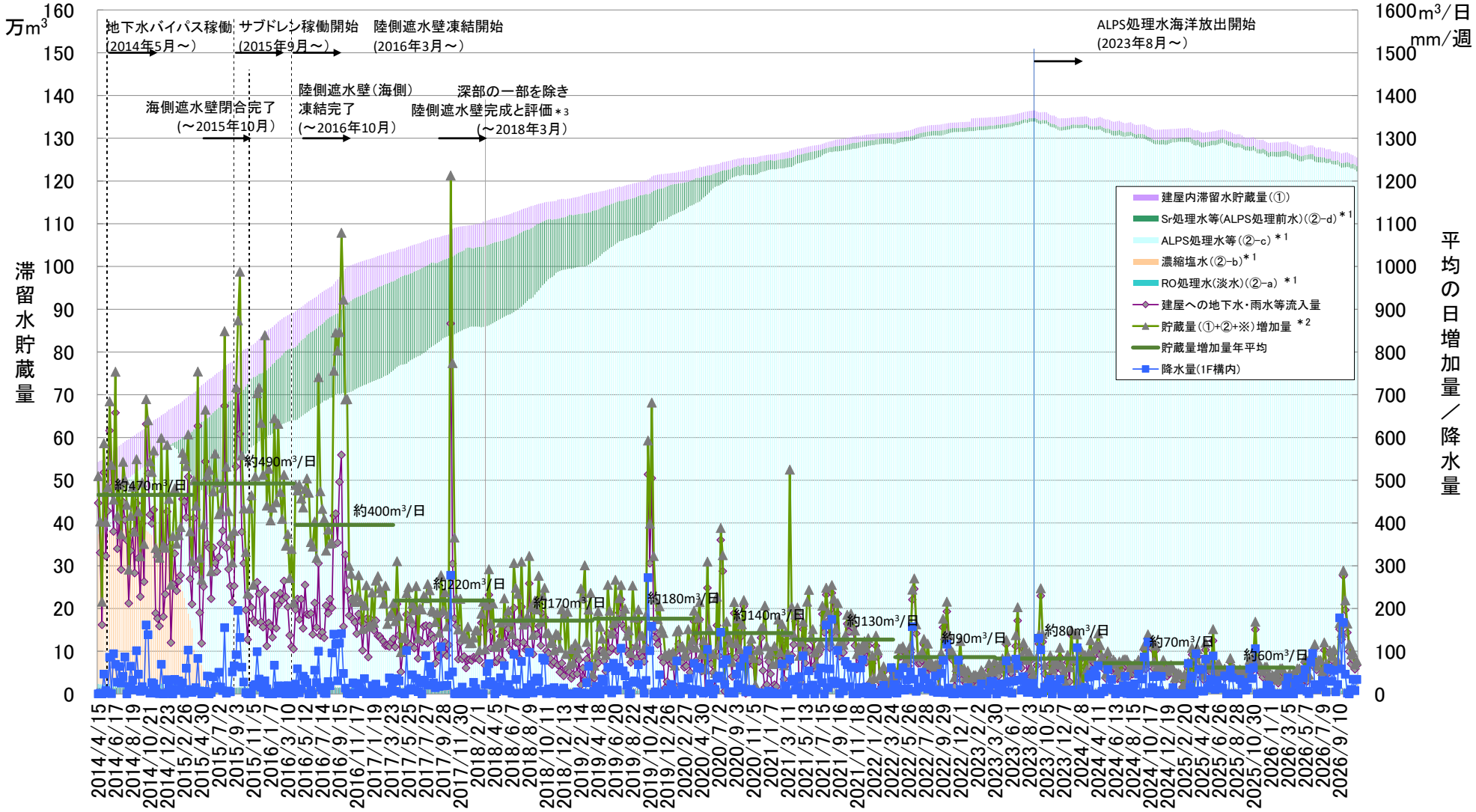
＊1：水位計0%以上の水量
＊2：汚染水発生量の算出方法で算出 [（建屋への地下水・雨水等流入量）+（その他移送量）+（ALPS薬液注入量）]、ALPS処理水の放出量は加味していない
＊3：多核種除去設備のクロスフローフィルタの詰まり等に伴う設備稼働状況によりSr処理水等の処理量が増減

多核種除去設備等の稼働状況

設備	期間処理水[注1,4]		定格処理量
	[m3/週][注2]	[m3/4週]	[m3/日]
既設多核種除去設備	0	0	750以上
増設多核種除去設備	499	2,830	750以上
高性能多核種除去設備	0	0	400以上
高性能　検証試験装置	0	0	50
合計	499	2,830	

注1）処理量は全て出口積算流量計から算出しており、薬液注入量を含む。
注2）処理量499m3の内訳はRO濃縮塩水処理量 0m3、Sr処理水処理量 476m3、処理水処理量0m3、薬液注入量他 23m3注3）を含む
注3）処理水を用いて粉体を溶かし生成している薬液量（6m3）を含む。
注4）設備の出口積算流量計を基に算出

滞留水の貯蔵状況の推移（長期グラフ）



①：建屋内滞留水貯蔵量（1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(A)、SPT(B)、1～3号機CST、バッファタンク）

②：1～4号機タンク貯蔵量

（〔②-aRO処理水(淡水)〕＋〔②-b濃縮塩水〕＋〔②-cALPS処理水等〕＋〔②-dSr処理水等(ALPS処理前水)〕）

※：タンク底部から水位計0%までの水量（DS）

＊1：水位計0%以上の水量

＊2：汚染水発生量の算出方法で算出 ［（建屋への地下水・雨水等流入量）+（その他移送量）+（ALPS薬液注入量）］、ALPS処理水の放出量は加味していない

＊3：深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了